

## 同潤会アパートメントの歴史的価値の評価及び保存・活用手法に関する研究 —都市生活における共用施設のあり方について—

Research and proposal on evaluation and preservation utilization method of Doujunkai Apartment historical value  
-Regarding shared facilities in city life-

○堀田健太<sup>1</sup>, 田所辰之助<sup>2</sup>

Kenta Hotta<sup>1</sup>, Shinnosuke Tadokoro<sup>2</sup>

Apartment houses and apartments in the current city have few places to interact with people. I wonder if the place where diverse people can gather and live is such a place. Despite the object of the earthquake reconstruction aimed at the Doujunkai apartment which is the beginning of an urban apartment house, a space conscious of urban life was proposed. In this research, we aim to re-evaluate the historical value of Doujunkai apartment which was already demolished, to suggest how to live in the city by presenting methods of conservation and utilization.

### 1. 研究背景

現在の都心部にある集合住宅、マンションは地域との関わりが少ないものが多い。部屋としての機能はいいかもしれないが人と人がコミュニケーションをとることは少ないし、一緒の場所に住んでもいるにもかかわらず隣に住んでいる人すら関わりのないことが多いのではないかと。多様な人が集まって暮らすことのできる場所がそのような場所でのいいのか疑問に思う。

このような集合住宅やマンションが多くなってしまったのはいつからなのか気になり、日本の都市型集合住宅の始まりである同潤会アパートメントを研究しようと考えた。

現在、同潤会アパートメントはすでに全てが取り壊されてしまった。日本の都市型集合住宅の始まりである同潤会アパートメントを保存することはできなかったのかと考え、同潤会に関する研究をしようと考えた。

### 2. 研究目的と方法

同潤会アパートメントが保存・活用されることで人と人が関わり合うことのできる豊かな生活を現代に示し、都市の中での住み方の示すことを目的とします。特に同潤会アパートメントで多く計画された様々な共用施設（集会室、娯楽室、社交室、食堂、浴場）が果たす役割を示すことを目的とします。

方法として、大正15年から昭和9年にかけて計画された15カ所の同潤会アパートメントを対象とし、分析を通して、それぞれの同潤会アパートメントの歴史的価値を評価することで残すべき点を明らかにしていく。

また、同潤会アパートメントの中で共用施設がどこに配置され、それが生活にどのような影響を与えていたのかを読み取る。

### 3. 代官山アパートメントにおける共用施設

代官山アパートメントには娯楽室、食堂、浴場、児童遊園が計画された。36の住棟が3つの通りに沿って配置され、「田園都市」的な性格を持ちます。今日の代官山ではビルが立ち並んでいるが、当時では郊外であり、市街地化されていなかったため、団地として自立させるために多くの共用施設が設けられた。

配置図を見ると2つの通りが交わっている場所に本館があり、1階に食堂と店舗、2階に娯楽室が設置されている。この本館の場所は代官山アパートメントの中心に配置されており、住民たちの生活の拠点となっており、浴場は本館の斜向かいに配置されており、隣接する道路にも近いことから、近隣の住民にも利用されたのではないかと考える。また、田園都市的な配置のため、通りには緑が多く、出会いの場でもあり、これも重要な共用空間であった。



図1. 代官山アパートメント 配置図

1 : 日大理工・学部・建築 2 : 日大理工・教員・建築

#### 4. 大塚女子アパートメントにおける共用施設

大塚女子アパートメントは同潤会アパートメントで唯一の男性禁制のアパートメントであった。全ての部屋が独身部屋になっており、昭和のはじめ、資格をもつ女性の職場進出があり、当時の社会的要請を実現したものである。

共用施設としては食堂、浴室、日光室、音楽室、応接室があり、女子アパートメントらしい共用施設が多くある。食堂、浴場は地階に配置されており、他の同潤会アパートメントとは違い、近隣の人が利用できない計画になっている。これは女子アパートメントのため安全を考慮したためだと考える。応接室は1階にあり、中庭と繋がっており、ロビーのように使われており、家族などの男性が唯一入れる場所であった。日光室、音楽室は屋上に配置され、5階の洗濯場と繋がっている。休日に洗濯をしながら休めることができ、交流の場になっていた。女性が豊かな都市生活をおくるための共有施設が揃っているアパートメントであった。

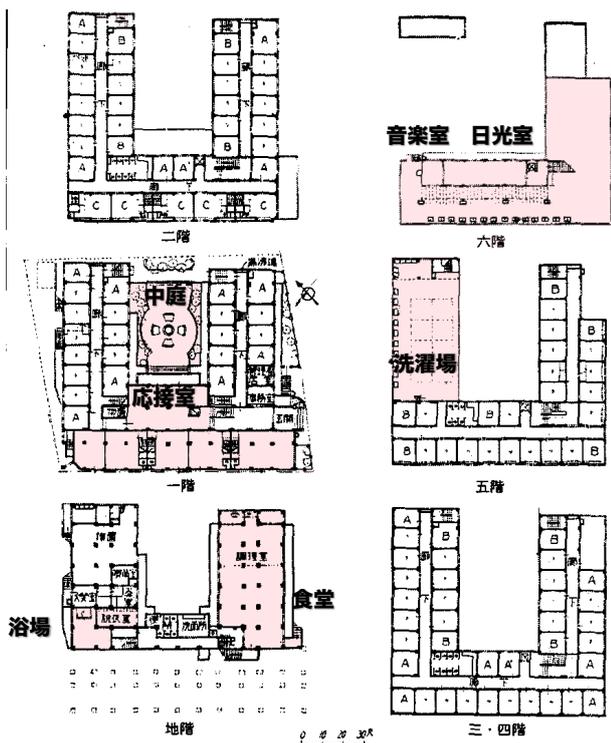


図2. 大塚女子アパートメント 平面図

#### 5. 江戸川アパートメントにおける共用施設

江戸川アパートメントは同潤会アパートメント事業の最後に建設され、同潤会アパートメントの集大成であった。

共用施設としては児童遊園、食堂、浴室、社交室、理髪店がある。さらに江戸川アパートメントの大きな特徴として2棟の住棟に囲まれた中庭がある。この中庭も江戸川アパートメントにとっては重要な共用施設

であるとする。

江戸川アパートメントにおいて、共用施設は西側通りに面して(平面図左上)計画された。地階に浴場と理髪店、1階に食堂、2階に社交室が配置されている。これは居住者だけでなく、近隣住民にも利用され、多くの交流を促すために配置したと考える。しかし、中流階級向けに計画されたことや南側前面道路計画が中止になり、江戸川アパートメントは閉鎖的な場所になってしまい、地域との関係が薄れてしまった。

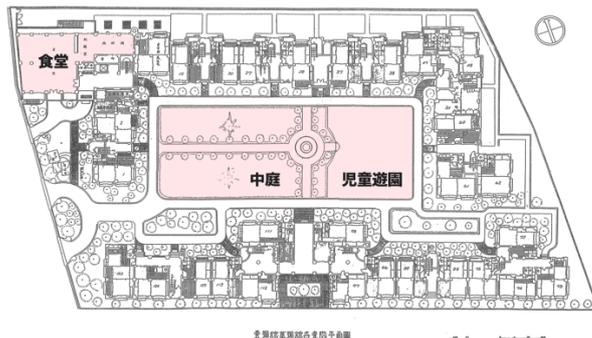


図3. 江戸川アパートメント 1階平面図

#### 6. 共用施設から見られる同潤会の思想

同潤会アパートメントの特徴を見てみると多様を意識していることがわかる。これは同潤会が単なる復興のための住宅を供給するのではなく、都市を意識した共同生活を示していると考えられる。共用施設はそれらを具体化したものであった。

#### 7. まとめ

同潤会アパートメントでは多様な共用施設を中心として都市での共同生活がおこなわれていたことがわかる。配置計画から居住者だけでなく、近隣にも使われるように計画されていることがわかる。

同潤会アパートメントは都市型集合住宅であるため家族世帯だけでなく独身者の利用を想定している。独身者にとって共用施設は共同生活の中心であった。

#### 【参考文献】

- [1] 橋下文隆、内田青蔵、大月敏雄『消えゆく同潤会アパートメント-同潤会が描いた都市の住まい江戸川アパートメント』河出書房新社、2003年
- [2] 佐藤滋、高見澤邦郎、伊藤裕久、大月敏雄、真野洋介『同潤会のアパートメントとその時代』鹿島出版会、1998年
- [3] 内田青蔵『同潤会に学ぶ 住まいの思想とそのデザイン』王国社、2004年
- [4] マルク・ブルディエ『同潤会アパート原景 日本建築史における役割』住まいの図書館出版局、1992年
- [5] 高層住宅史研究会『マンション60年史-同潤会アパートから超高層へ』住宅新報社、1989年
- [6] 松葉一清『集合住宅-二〇世紀のユートピア』筑摩書房、2016年
- [7] 同潤会江戸川アパートメント研究会『同潤会アパートメント生活史-江戸川アパート新聞から』住まいの図書館出版局、1998年
- [8] 鈴木博之『現代の建築保存論』王国社、2001年
- [9] 鈴木博之『保存原論 日本伝統建築を守る』市ヶ谷出版社、2013年
- [10] 田原幸夫『建築の保存デザイン豊かに使い続けるための理念と実践』学芸出版社、2003年
- [11] 同潤会『外国に於ける住宅敷地割類例集』丸善社、1936年

#### 【図版出典リスト】

- 図1: 佐藤滋他『同潤会のアパートメントとその時代』鹿島出版会、1998年
- 図2: 大塚女子アパートメント <http://www.s-torii.com/dojunkai/map.gif>
- 図3: 橋下文隆、内田青蔵、大月敏雄『消えゆく同潤会アパートメント-同潤会が描いた都市の住まい江戸川アパートメント』河出書房新社、2003年